第3種郵便物認可

# 市民の声 議会動かす

## 「至誠小」白紙 26日再協議

「賛成の諸君の起立を」。22日の倉吉市議会本会議。福谷直美議長の呼びかけに、15人中13人の市議が立ち上がった。倉吉市に来春、「至誠小学校」として開校するはずだった学校名が白紙に戻った瞬間、傍聴席からはざわめきと拍手が起こった。開校まで3カ月余りとせまった状況の中で、市民運動が市議会を動かした格好だ。

新小学校名を「至誠」と定めた改正学校設置条例の廃止案に、起立して賛成する倉吉市議ら＝倉吉市

### 賛成13人 反対2人

### 市長「署名に賛成 感謝している」

市民有志は9日、4815筆の署名を添えて、広田一恭市長に対し、校名を「至誠」と定めた改正学校設置条例を廃止するよう直接請求。この日の市議会で、市長が提案した条例廃止案の採決が行われた。

採決前には、議長を除く15人中13人が討論。賛成意見は8人、反対意見は5人。討論は約1時間半に及んだ。

「公明党・改革新政会市議団」（5人）は、3人が反対討論に立った。「開校準備は中断を余儀なくされ、既に影響が生じている」（鳥羽昌明市議）、「議論を積み重ねた統合準備委の決定を尊重するべきだ」（鳥飼幹男市議）。

一方、賛成意見が過半数の8人に達した時点で、その後の採決では僅差で可決される見込みとなった。

十数分の休憩後の採決では、公明党・改革新政会は5人全員が起立し、傍聴席から驚きの声が上がった。結局反対は、会派「さきがけ」の朝日等治市議、山根健資市議の2人だけだった。

閉会後に取材に応じた公明党・改革新政会代表の鳥飼市議によると、会派内で議論はあったが最終的には「広田市長の提案を受け入れた方がいいだろう」という意見でまとまったという。鳥飼市議は「（当初の選考）過程は間違っていないが、それを市民に公開されるようにもう一度進めたいという市長の思いを尊重した」「これ以上の混乱は望まない」と述べた。

一貫して校名再考を主張していた大津昌克市議は「正しい判断をいただいた。議論を重ねたかいがあった」と歓迎。一方、反対した山根市議は「開校に本当に間に合うかどうか。地域の対立をさらにあおることにならないかも心配だ」と、厳しい表情だった。

広田市長は取材に、「（署名に応じた）4815人の請求に賛成する意味で提案した。大変感謝している」。直接請求の請求代表者の1人、深田哲士さんは「ハラハラしたが、多数の賛成で決まって良かった。問題は今後で、これからの統合準備委の議論を注視する」と話した。

市教育委員会は26日に統合準備委員会を公開の場で開き、新校名の再協議に入る。協議を踏まえ、市は来年1月に臨時市議会を開き、校名を決めたい考えだ。

（奥平真也、清野貴幸）

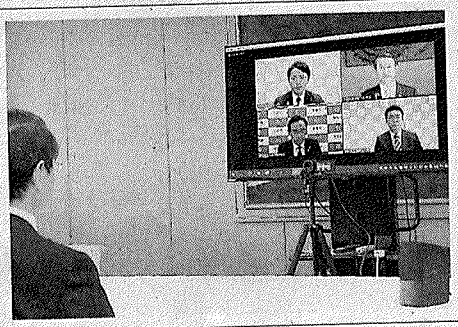
## 山陰ジオパーク 対策チーム設置

### 3府県知事、方針確認

京都、兵庫、鳥取の3府県にまたがる山陰海岸ジオパークが、2年間の条件付きでユネスコの世界ジオパークに再認定されたことを受け、3府県の知事が22日、オンラインによる緊急会議を開き、今後の対応方針などを確認した。

条件付き再認定は「イエローカード」とされ、2024年までに指摘事項を改善しておく必要がある。今後、3府県と、地元の6市町で「対策検討チーム」を設け、来春ごろに示される審査結果の詳細や指摘事項に対応する。また25年に大阪・関西万博を控えていることから、3府県や関係団体で連携し、ジオパーク誘客の機運も盛り上げる。

鳥取県の平井伸治知事は



オンラインで協議する京都、兵庫、鳥取の3府県の知事ら＝県庁